

そよかぜだより

世界大不況・ひばり園にも深刻な影響

ベアリング減量、古紙単価は下落

「100年に一度」と言われる世界大不況の津波が、ひばり園にも押し寄せてきました。利用者の仕事と収入の中心であるベアリングが大幅に少なくなりました。今年度の収入はかなりの下方修正が必要となりそうです。さらにも

一つの影響は、資源回収で集めている古紙単価の下落です。二ヶ月ほど前から急激に下がりはじめ、今後も段階的に下がる見通しだということ。ベアリングと資源回収は、そよかぜがもつとも大切にしてきた収入源ですから、この二つが落ち込むと、その影響は深刻です。

ベアリングは自動車部品です。トヨタをはじめ各自動車メーカーが減産態勢に入れば部品もそれに応じて減量され

るのは当然のことです。経営効率では世界一の企業と言われていたトヨタでさえ今期決算は赤字になりそうだといいことです。この度の不況がいかに深刻であるかよくわかります。

古紙については、王子製紙と日本製紙が十二月から減産を強化する方針を発表しました。これまでの減産にもかかわらず在庫が増えているためです。驚異的な成長をつづけてきた中国さえ成長率がストップしたそうです。ダンボール原料となる古紙についてはいままで中国からの引き合いが強くて、単価を押し上げる原因になっていました。その中国が、もう要らないといいためたのです。

自動車に限らず、ソニー、キヤノン、東芝などの電機メーカーまで減産と人員削減態勢に入り、非正規従業員を解雇して社会問題になっています。一流大企業がこの状態ですから、他の中小企業の状態は推して知るべしです。

ただひばり園では、たいへんありがたいことに農業機械部品の袋詰め作業が予想外に大きく伸びていて、それがベアリングの落ち込みをかなりカバーしています。どうやら農業関係は車や電機関係に比べると不況の影響が少ない分野のようです。

世界の経済はいま完全にパニック状態です。これは、私たち自身の力でどうこうできる問題ではないので、しばらくじっと我慢して耐えるしかないと思っています。こんなときに、あせって仕事を探そうと動き回るのは、かえって危険であぶないと自重している状態です。

第79号
発行 2008.12.21
毎月1回発行
NPO法人
障害者団体連絡会
そよかぜ
<http://www.mmjp.or.jp/soyokaze/>
連絡先
ひばり園 578-0855
FAX 578-0466
くれよん 578-2575
つくしの家 578-0855
あおぞら 570-6110
エール 570-1233
資源回収時のご連絡は「ひばり園」へ

そよかぜ各事業の
年末年始休業のお知らせ
ひばり園・あおぞら・つくしの家
12月26日～1月5日
リサイクルショップ くれよん
12月30日～1月5日

NPO法人 そよかぜの

《資源回収》に

ご協力をお願いします

新聞、雑誌、ダンボール

(ボロは扱っていません)

11月は26,340tでした。金額は576,699円となりました。この収益は、NPO法人そよかぜの運営資金になります。みなさまのご協力ありがとうございました。

1月は第3日曜日18日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

ご協力ありがとうございました。 11月の募金 32,440円
(順不同) 平成20年4月～11月の合計 421,091円

とまと美容室	様	帯刀 進	様	山田 隆章	様
藤野 和子	様	国本 昭治	様	石堂 孝一	様
濱野 岬	様	山下 暉枝	様	阿部 郁子	様
井上 誠一	様	高橋 典子	様	北野 浩美	様
袴田 実	様	大野 元雄	様	渡辺 四郎	様
天満 喜代子	様	森田 勝	様	平野 嘉子	様
古澤 奈保美	様	エイ・アイ	様	田中 明子	様
川崎 利男	様	榎本 正代	様	清水 キヨ子	様
長谷川キヌ子	様	松岡 竹子	様	尾又 恭子	様
関谷 孝子	様	角野 満壽子	様	本間 正彦	様
清水 賢	様	竹内 照夫	様	関谷 達夫	様
清水 知子	様	下田 コウ	様	関谷 和子	様
永岡 智恵子	様	吉野 満里子	様	桜沢 喜作	様
土屋 三枝子	様	小沢 達子	様	平岡 知子	様
山影 幸子	様	ヘアサロンカワノ	様	野崎 敬雄	様
草間 哲夫	様	アバンバンディックス	様	斉藤 忠	様
山崎 六雄	様	関村 理	様	橋本 亜紀子	様
田中 稔	様	関村 英希	様	木村 宏	様

匿名様(3,050円)

羽村市内の小学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さっています。ありがとうございます。

ご連絡は、ひばり園へ
羽村市五ノ神2-6-7
042-578-0855
くれよん11月の売上げ
867,340円でした。

千葉県東金市で女の子の遺体が路上で見つかった事件

知的障害者への偏見が心配

福祉関係者に大きなショック

千葉県東金市の路上で5歳の女の子が遺体で見つかった事件で、死体遺棄容疑で逮捕された勝木容疑者が知的障害者であることが広く報道されたため、いま障害者福祉にかかわる関係者の間に大きなショックが広がっています。

昨年一月、大阪府八尾市で知的障害の男が、当時3歳の男児を歩道橋からいきなり投げ落として重傷を負わせた事件の時も、関係者の受けた衝撃は大変なものでした。この時も、いままで聞いたこともない異様な事件だったのでマスコミは大騒ぎをして何回もくりかえして報道しました。そのため「障害者は怖い」という偏見につながることを関係者は恐れました。

八尾市の事件が時間とともにようやく記憶から薄れかけていたときに、東金市の事件が発生しました。さらに悪いことには、これより少し前に

『うちは大丈夫だよ』と言おうと身構えちゃう』と言っているそうです。

起きた元厚生事務次官宅への連続襲撃事件で、容疑者が犯行の動機として「犬のあだ討ちだ」と述べたことでした。事件の重大さに比べてあまりにも釣り合いが取れないこの動機は、マスコミの格好の話題となって強調されました。

この容疑者に障害があるかどうかについて断定した報道はありませんが、世間の人はこの動機を聞いて「これは普通の人ではない」と受け止めたことは間違いありません。

東金市の手をつなぐ親の会の会長は事件後、会員から不安の声が相次いで寄せられているといい「日頃の活動を見ている人なら理解してくれるが、そんな人はごく一部だろう」といい、社会一般に広がる偏見を心配しているそうです。容疑者と同じ養護学校に息子が通っていた50代の女性性は「もし隣近所の人との付き合いいで事件の話が出たら

『うちは大丈夫だよ』と言おうと身構えちゃう』と言っているそうです。

見つけました。彼は少女の腕を左手でつかみ、右手で包丁を突きつけて脅しつつ便室の中に連れ込んで内側から施錠しました。少女が閉じ込められる有様は大勢の人が目撃していたので、Sの行動を制止しようとしたが、「騒ぐと女の子を殺すぞ」と叫ぶので手が出せなかったのです。警察官も集まり説得しましたが、人質の安全を考えて手出しができないまま七時間後にようやく解放され、少女は幸いに軽症でした。監禁中に報道陣もかけつけ中継で放送したので大変な話題になりました。

Sの母親は、Sを妊娠したころ覚せい剤の常習者でした。父親はSが生まれてすぐ母子を棄てて家を出て行方不明になりました。母親も、水商売であちこちに働きに出ているので、Sの養育は母の両親に委ねられました。母親はその後にも男性遍歴をつづけ、たまたまに男に捨てられて帰郷したかと思うと、また別の男を作ったり、働き口をみつけたりして家を出ていきました。Sの少年時代、母子関係はほとんどありませんでした。小学四年生から登校拒否がつづき、非行が始まります。祖父母は困り果ててSを養護施設へ入れました。そこから小・中学校に通いましたが、この間に逃走、けんか、窃盗などの問題行動がつづきました。十六歳のとき少年鑑別所から医療少年院に送られ一年二ヶ月をすごします。仮退院して四ヶ月間、土建会社で働いたのがSがもつとも長くつづいた社会生活でした。その後、何回も少年院の出入りを繰り返します。少女の監禁事件を起こしたのも退院後一ヶ月と七日目のことでした。

参考事例・遊園地人質事件
長年にわたって大勢の犯罪者の精神鑑定に関わってきた精神科医の福島章氏が書いた本（犯罪心理学入門）の中に大変参考になる事例があるので、次に要点を紹介します。

この事件の犯人Sは軽度の知的障害者で、二二歳の青年でした。日曜日の午後、Q遊園地を訪れた彼は、女子トイレの手洗い場で十歳の少女を

見つけました。彼は少女の腕を左手でつかみ、右手で包丁を突きつけて脅しつつ便室の中に連れ込んで内側から施錠しました。少女が閉じ込められる有様は大勢の人が目撃していたので、Sの行動を制止しようとしたが、「騒ぐと女の子を殺すぞ」と叫ぶので手が出せなかったのです。警察官も集まり説得しましたが、人質の安全を考えて手出しができないまま七時間後にようやく解放され、少女は幸いに軽症でした。監禁中に報道陣もかけつけ中継で放送したので大変な話題になりました。

どありませんでした。小学四年生から登校拒否がつづき、非行が始まります。祖父母は困り果ててSを養護施設へ入れました。そこから小・中学校に通いましたが、この間に逃走、けんか、窃盗などの問題行動がつづきました。十六歳のとき少年鑑別所から医療少年院に送られ一年二ヶ月をすごします。仮退院して四ヶ月間、土建会社で働いたのがSがもつとも長くつづいた社会生活でした。その後、何回も少年院の出入りを繰り返します。少女の監禁事件を起こしたのも退院後一ヶ月と七日目のことでした。

Sの精神鑑定をするために、その養育歴や生活環境を詳しく調査した福島氏は、Sの異常な性格や反社会性について次のように分析しています。

Sの家は欠損家庭、崩壊家庭であり、不道徳家庭でもあった。家庭の教育能力が十分でなかったため、最初の非行から施設収容が決定され、それが早くから「少年院帰り」というレッテルを彼に貼り付け、社会の中で生活し学習する機会を奪った。養護施設、

鑑別所、少年院などに入所している期間の方が圧倒的に長く、社会や家庭で暮らす期間はきわめて短かった。施設では若くして仲間から非行的行動を学習した。Sには、乳幼児期に母のふところに抱かれ、愛情を一身に受け、甘えるという経験は一度もなかった。恵まれない生育環境によって反社会性が形成された。知的障害者に多い犯罪は単純財産犯（万引き、窃盗等）であり、

知的障害者だけに重大な犯罪に陥ることはきわめてまれである。本来の障害に環境の問題が加わって初めて、思いもかけぬ犯行が起こるものである。知的障害者の人々に対しては裁判や刑罰でなく、保護、教育、援助こそが重要なあり、それがもつとも有効な犯罪防止策である。

ひばり園やおぞらに來ている人たちを見ていると、たとえ人から勧められ、そのかされても悪いことが出来そうなる人はひとりもいません。障害者が犯罪を生むのではなく、障害がない普通の人でも犯罪者になる要因が犯罪を生むのです。

ひばり園やおぞらに來ている人たちを見ていると、たとえ人から勧められ、そのかされても悪いことが出来そうなる人はひとりもいません。障害者が犯罪を生むのではなく、障害がない普通の人でも犯罪者になる要因が犯罪を生むのです。

ひばり園やおぞらに來ている人たちを見ていると、たとえ人から勧められ、そのかされても悪いことが出来そうなる人はひとりもいません。障害者が犯罪を生むのではなく、障害がない普通の人でも犯罪者になる要因が犯罪を生むのです。

ひばり園やおぞらに來ている人たちを見ていると、たとえ人から勧められ、そのかされても悪いことが出来そうなる人はひとりもいません。障害者が犯罪を生むのではなく、障害がない普通の人でも犯罪者になる要因が犯罪を生むのです。

ひばり園やおぞらに來ている人たちを見ていると、たとえ人から勧められ、そのかされても悪いことが出来そうなる人はひとりもいません。障害者が犯罪を生むのではなく、障害がない普通の人でも犯罪者になる要因が犯罪を生むのです。